

道徳科学習指導案

6年3組 32名 指導者 野里 賢志

本授業は、以下の検証を行うものである。

問題意識をもたせるために「自分シート」を活用したり、道徳的価値の自覚を深める「発問」を行ったりすることは、子供が問題意識をもち、物事を多面的・多角的に考え、納得する考えを見いだそうとする「自ら学ぶ子供」を育成するための手立てとして有効であったか。

1 主題名 よりよいきまり（教材名「団地と子犬」〈読み物－日本文教出版〉）

2 ねらい

きまりが変わる理由を話し合う活動を通して、きまりはそこに関わる人が幸せに生活できるように作られたもので、実情に応じて変えることが必要であることに気づき、法やきまりを進んで守ろうとする心情を育てる。 (C 規則の尊重)

3 主題について

(1) ねらいとする道徳的価値について

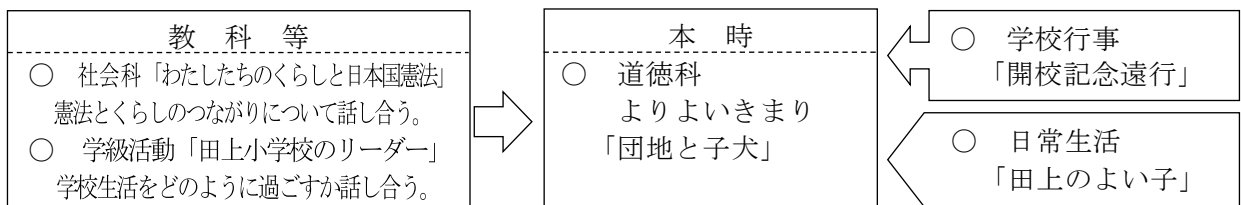
本主題は、C「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」で、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容項目である。これは、中学年のC「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」からつながったもので、中学校のC「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。」へと発展するものである。

規則の尊重とは、自分と相手とが気持ちよく生活していくために、互いの意志に基づいて取り交わされた約束や法、きまりを守るとともに、互いの生活を律することである。集団生活のあるところに、必ずきまりや規則というものがある。このきまりや規則は、集団の発展と維持のために作られたものであり、その集団に属している人々全体の幸福のために作られたものである。きまりや規則を守ること、人間関係に信頼や連帯感が生まれ、社会の秩序が保たれるということを感じることが大切である。

この期の子供は、それぞれの規則に意味があり、守らなければいけないと自覚はしているが、個人の都合や利益を優先させてしまう未熟さがある。そのような時期だからこそ、互いの権利と生活を守るために規則を遵守することや、状況に応じて主体的に規則を見直すことが大切であるという理解ができるように指導することが大切である。

そこで、主題において、他人の権利を理解、尊重することで、個人や集団が安全にかつ安心して生活ができることに気づき、法やきまりを進んで守ろうとする心情を育てることは大変意義あるものと考えられる。

(2) 全体計画（別葉）との関連



(3) 子供の実態について 令和3年4月20日 調査人数32名 複数回答、()は反応数

① これまできまりを守れたことがあるか。なぜ、守れたのか。 【できた経験】
ある (31) ない (1)
・けがや病気を防ぐため。(7) ・他人に迷惑がかかるから。(5) ・ルール(きまり)だから。(6)
・下学年の手本にならないといけないから。(4) ・時間に余裕があり落ち着いていたから。(3)
・守ると楽しいから。(3) ・自分自身で意識しているから。(2) ・命に関わるから。(2)
② きまりを守れなかったことがあるか。なぜ、守れなかったのか。 【できなかった経験】
ある (29) ない (3)
・急いでいたから。(12) ・少しくらい大丈夫だろう。(6) ・楽しくてやめられないから。(4)

<ul style="list-style-type: none"> ・我慢ができなかったから。(2) ・守れないことが癖になっているから。(1) ・忘れてしまうから。(1) ・早く遊びたかったから。(1) ・友達に合わせてしまう。(1) ・面倒と感じてしまうから。(1)
<p>③ きまりを守ることは、なぜ大切か。 【意義】</p> <p><自分にとって> ・守らないとだめな人間になる。(1) ・自分の命に関わる。(1)</p> <p><相手にとって> ・他人に迷惑がかかる。(7) ・みんなが気持ちよく過ごせる。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人が守らないと全体が崩れる。(4) ・下の子供たちに手本を示すことができれば、よくなっていく。(3) ・守らないとけがにつながる。(2) ・人の幸せにつながる。(1) ・命に関わる。(1) <p><周りにとって> ・守らないと、他のことも守らなくなる。(2) ・社会の条例と同じようなものだから。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活がよりよくなる。(1) ・きまりを作るほど大切なことだから。(1) ・環境をよくするため。(1) ・守らないと、世界が悪い人しかいなくなるかもしれない。(1)
<p>④ きまりを守るには、どんな気持ちや考えが大切か。 【心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当たり前という感覚をもつ、意識付ける。(8) ・絶対守ると心に決める。(8) ・なぜ守るべきか、守らなかったらどうなるかを考える。(6) ・相手の気持ちを考える。(6) ・手本になるようにする。(2) ・一人一人の行動を見直す。(1) ・責任感をもつ。(1)

本学級の子供は、実態アンケート①から、ほとんどの子供が、きまりを守ることができた経験がある。できた理由は、けがや病気を防ぐ、みんなに迷惑がかかるなどが挙がる一方で、ルールだからと回答する子供も多いことが分かる。②の守れなかった理由からは、急いでいた、少しくらい大丈夫だろうという自分の感情を優先していることが分かる。③よりその意義については、他人に迷惑がかかる、一つが守れなければ他も守らなくなってしまうなど、きまりを守らなければ、周りや社会にも影響を与えると考えている子供もいることが分かる。さらに、④よりその心構えについては、自分自身の意識付けを重視する考えや相手への影響について考えている子供が多いことが分かる。

そこで、きまりが存在する理由を考え、きまりの必要性について気付かせ、法やきまりを進んで守ろうとする心情を育てたい。

(4) 教材について

本教材は、団地では動物を飼ってはいけないという規則があるが、目の見えない子犬を拾った団地の子供たちは世話をしたいと自治会の役員に申し出る。役員は規則がある理由を話し、説得しようとするが、子供たちは団地の規則を分かった上で提案をしていく。その後、規則を変えるかどうか団地全体で話し合い、「この犬に限って許可する」と規則の一部が変わるという内容である。

本教材は、規則が必要に応じて変わることがあることを理解し、規則のもつ役割について深く考えることができる教材である。団地の規則がある理由や規則が変わった理由について考えることで、規則がお互いの意志で作られ、その集団の願いや状況の変化に応じて改善する必要があることに気付くことができる。

4 指導に当たって

「見つめる」過程では、「自分シート」を基に、これまでの経験を振り返りながら、きまりが存在する理由について話し合う。その際、法律改正の資料を提示し、「なぜ、きまりが変わったのだろう。」「きまりは、変えてもよいのだろうか。」などと揺さぶることで、「何のために、きまりはあるのだろうか。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。

「問い直す」過程では、団地のきまりを変えた理由について話し合うことで、集団の願いや状況の変化に応じて改善する必要があることに気付くことができるようにする。その際、「心に見える図(天秤図)」を用いてまとめることで、相手や周りの立場に立ち、多面的・多角的な視点から捉えることができるようにする。また新しく作られたきまりを例に挙げ、「きまりは、どうして変える必要があるのか。」と問い掛け、対話活動を行うことで、実情に応じてきまりを変えることで、安心・安全に過ごせることに気付き、きまりを守る意義について、自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるようにする。

「振り返る」過程では、この学習で見いだした考えをまとめたり、実生活で生かせそうな場面を想起したりすることで、自分との関わりで捉え、これからの自己の生き方に結び付けて考えることができるようにする。

「あたためる」過程では、教師の説話を通して、きまりを守ることの意義やよさを実感できるようにする。また、社会科の学習(法律の制定や選挙など)と関連をもたせ、法やきまりを進んで守ろうとする心情を育てることができるようにする。

5 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
見つめる	5	1 きまりを守れた・守れなかった経験を振り返り、具体的な事例を基に、本時のめあてをつかむ。 [・ 守れた。他人に迷惑がかかるから。 ・ 守れなかった。急いでいたから。] 何のために、きまりはあるのだろうか。	○ 「自分シート」を基に自分の経験を振り返り、きまりを守れたときと守れなかったときがあることに気付くことができるようにする。 ○ きまりが変わっている事例を示し、「何のために、きまりはあるのだろうか。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。
問い直す	30	2 教材「団地と子犬」を読んで考え、話し合う。 (1) 団地にきまりがある理由について話し合う。 [・ 団地の人が気持ちよく過ごせるように、きまりがあると思う。 ・ アレルギーの人がいたら大変。] (2) 団地のきまりを変えた理由について話し合う。 [・ 子供たちがみんなで世話をするだとうと信じているから。 ・ 団地の人に、大きく迷惑をかけることはなさそうだから。] 3 複数の事例を基に、きまりが変わる理由について考え、きまりを守る意義について話し合う。 [・ きまりがないと、みんなが好き勝手にする。安心とは言えない。 ・ きまりを守ることで、みんなが安心して過ごすことができる。 ・ 環境の変化に応じて、きまりを変えることで、気持ちよく過ごせる。]	○ 教材を読む前に、登場人物や問題場面の状況を確認できるようにする。 ○ 団地で動物を飼ってはいけない理由について話し合うことで、団地が大切にしている考え方に気付くことができるようにする。 ○ 団地のきまりを変えた理由について話し合うことで、集団の願いや状況の変化に応じて改善する必要があることに気付くことができるようにする。その際、「心の見える図(天秤図)」を用いてまとめることで、相手や周りの立場に立ち、多面的・多角的な視点から捉えることができるようにする。 ○ 新しく作られたきまりを例に挙げ、「きまりは、どうして変える必要があるのか。」と問い掛け、対話活動を行うようにする。そうすることで、実情に応じてきまりを変えることで、安心・安全に過ごせることに気づき、きまりを守る意義について、自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるようにする。
振り返る	7	4 本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 [・ きまりがあるから、安心して生活を送ることができるのだと分かった。 ・ これまでの自分は、自分一人だけだったら大丈夫だろうと考えることがあった。 ・ 友達の「健康・安全」のためにきまりがあるという考え方に納得した。]	※ 振り返る活動における子供の考えを机間指導において次の視点で評価する。 (道徳ノート) ○ 今日の学習で見いだした考えや道徳的価値について ○ これまでの経験の振り返りと実生活で生かせそうな場面について ○ 学びが深まった友達の考えや学び方(話し合い)について
あたためる	3	5 きまりを守ることの意義やよさについて教師の説話を聞く。 [・ きまりは、自分たちの生活を縛っているイメージがあった。自分たちが安心して過ごせるように、きまりも変化している。だからこそ、きまりを守って、楽しく過ごしていこう。]	○ ある出来事がきっかけできまりが変わったことを紹介することで、きまりを守ることの意義やよさを実感できるようにする。また、社会科の学習(法律の制定や選挙など)と関連をもたせ、法やきまりを進んで守ろうとする心情を育てることができるようにする。